

# 洪水ハザードマップの見方と使い方

水害から自分の命、家族を守るために！

洪水は、いつ発生するかわかりません。「洪水ハザードマップ」は、万が一！というとき、住民の皆様が安全に避難していただくことを目的に作られています。よく読んで、避難場所や避難経路をあらかじめ調べておきましょう。



これが洪水ハザードマップなんだ。でも、どうやって使うの？

使い方はとてもカンタン。わが家が安全かどうか？ 避難場所はどこか？ 避難経路はどこか？ しっかり確認するんだよ！

## 「洪水ハザードマップ」に表されている内容

● 河川の氾濫による浸水が想定される区域※1と深さ

須川・馬見ヶ崎川・立谷川・村山高瀬川が1,000年に1回程度の大  
雨（最上川上流域全体の総雨量295mm/2日）で洪水が発生した場合、  
浸水が想定される区域と浸水した場合の深さを表しています。

● 避難場所と早期に区域外への避難が必要な場所

洪水が発生した場合に、どこに避難すべきなのかを表しています。  
自分の家を地図で確認し、避難場所や避難経路を把握しておきましょう。  
また、浸水深が深い区域（3.0m以上）、洪水により家屋が流出・倒壊するおそれが高い区域、橋を渡っての避難が必要な区域は、早期に区域外への避難が必要です。

● 短時間降雨による浸水が想定される区域（内水浸水想定区域）

山形市において記録した、1時間当たりの最大降雨量74.5mm（昭和56年8月3日）と同様の雨が降った時に側溝・堰などがあふれて20cm以上の浸水が想定される箇所を表しています。

● 大雨が降った時の危険箇所

中小河川・堰において、大雨による溢水や氾濫が発生した場合の危険箇所を表示しています。  
また、水が溜まりやすく通行止めになる恐れがある危険箇所や土石流・がけ崩れ・地すべり等が起こる可能性がある区域を表しています。

● 過去に浸水被害が発生した箇所

昭和42年の羽越豪雨で実際に浸水した範囲と、市民のみなさまからのアンケート調査結果をもとに、近年、浸水・溢水した箇所を表しています。

## 豆知識

### 馬見ヶ崎川の名の由来

馬見ヶ崎川の昔の名は白川でした。江戸時代の山形藩主、鳥居忠政があいつぐ洪水の対策として、河川の流れを変える大工事を行った際に、馬に乗って壺山のあたりから工事の指揮をとったと言われており、そのため「馬見ヶ崎川」と名を変えたとされています。

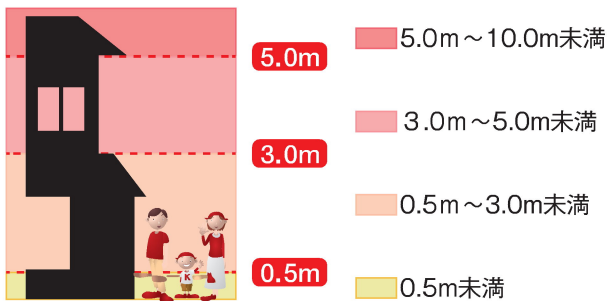
※1 浸水想定区域：洪水予報河川（※2）及び水位周知河川（※3）が想定最大規模降雨により氾濫した場合に浸水が想定される区域をいいます。このハザードマップには、水位周知河川に指定されていない村山高瀬川（国道13号より上流側）および犬川の浸水想定区域も表示しています。  
 ※2 洪水予報河川：国土交通大臣又は都道府県知事が、洪水により相当な損害を生ずる恐れがあり、洪水予報をおこなう河川をいいます。（令和2年現在、国土交通大臣および県知事が管理する須川、国土交通大臣が管理する区間の馬見ヶ崎川が洪水予報河川に指定されています。）  
 ※3 水位周知河川：洪水予報河川以外の河川で、国土交通大臣又は都道府県知事が、洪水により相当な損害を生ずる恐れがあり、水位周知をおこなう河川をいいます。（令和2年現在、県知事が管理する区間の馬見ヶ崎川、立谷川、村山高瀬川が水位周知河川に指定されています。）



# ステップ① 自分の家は どこかな？

洪水ハザードマップは、川があふれたときに想定される区域と水の深さを色別に表示しています。自分の家をさがして、浸水した場合の深さを確かめましょう。

## ●浸水した場合に想定される浸水深



(注) 浸水想定区域外の人でも予想外の洪水に備えて近くの避難場所を確認しておきましょう。

# ステップ② 危険な箇所は どこかな？

自分の家のまわりに特に危険となる箇所がないか見てみましょう。

## ●早期に区域外への避難が必要な場所

- ①浸水深が3.0m以上の区域
- ②橋を渡っての避難が必要な区域

5.0m～10.0m未満  
3.0m～5.0m未満

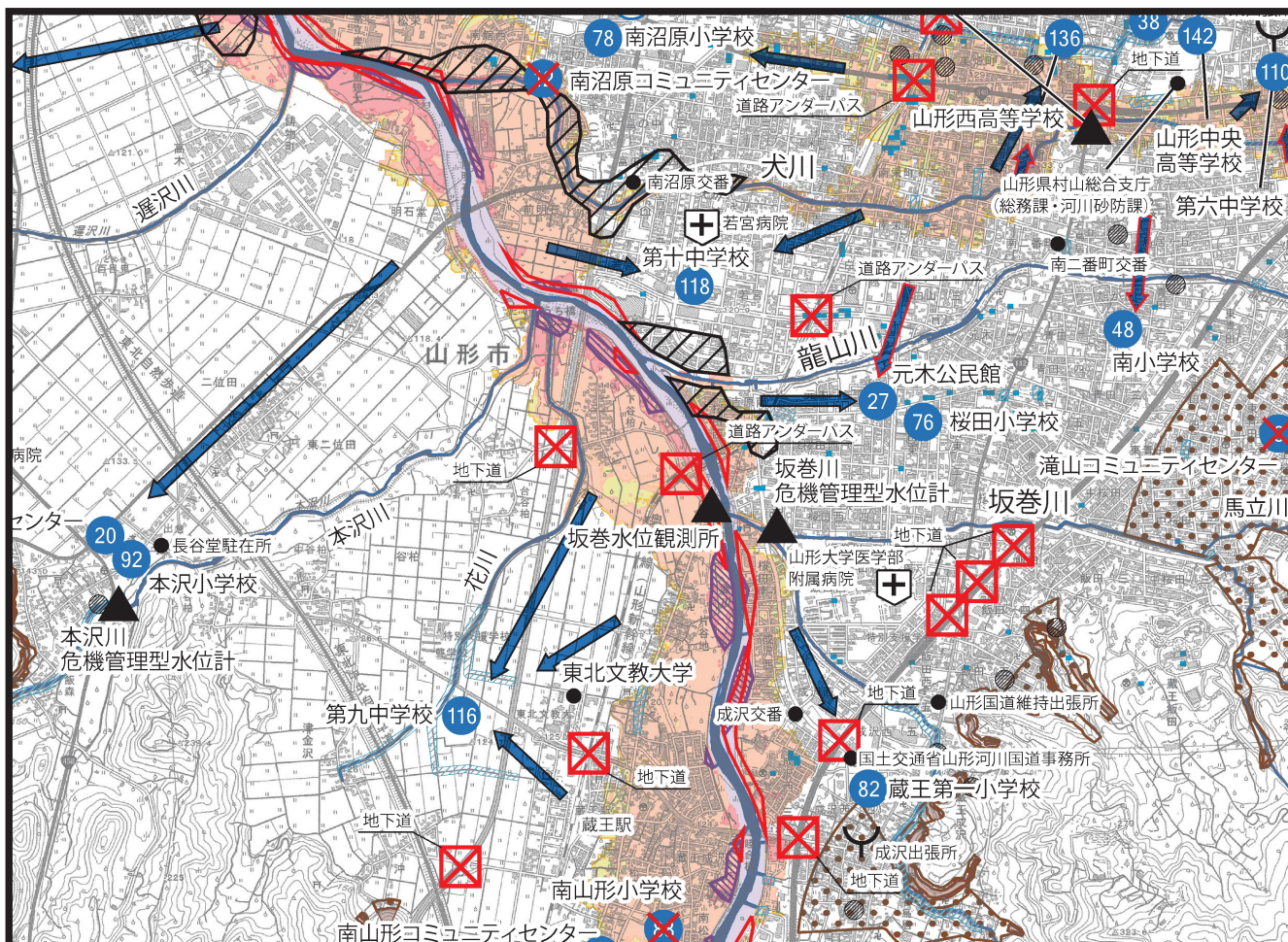
## ③河岸浸食

河岸が削られることによって家屋倒壊等の危険がある区域



## ④氾濫流

堤防の決壊などによって川の水が流出し、家屋倒壊等の危険がある区域



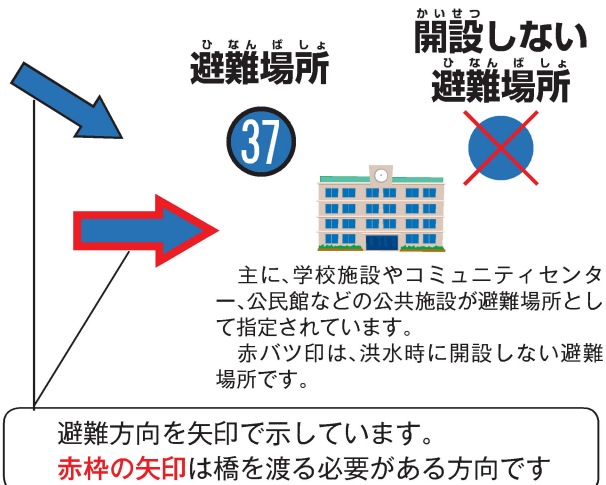
洪水ハザードマップの見方と使い方





## ステップ③ 避難場所を 確認しよう

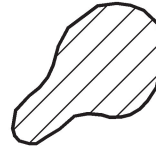
つぎに、自分の避難場所を確認して、避難場所までの経路を考えてみましょう。水がたまりやすい場所は避けましょう。



## ステップ④ 避難経路を 歩いて確認しよう。

洪水ハザードマップを持って危険なところなどをチェックしながら歩いて、安全で避難しやすい経路を確認しましょう。

### ★注意マーク1 過去の浸水区域



このマークで囲まれた区域は、昭和42年の羽越豪雨の時に浸水被害があった区域です。区域内の方はご注意ください。

### ★注意マーク2 内水浸水想定区域



このマークは、大雨の際に、側溝や堰などがあふれて20cm以上の浸水が想定される箇所です。避難の際は、注意しましょう。

### ★注意マーク3 氾濫危険箇所

過去に浸水、溢水した箇所



中小河川・堰の氾濫危険箇所



このマークの箇所は大雨時に氾濫を起こす可能性が十分にあり、周辺部を含めて注意が必要です。

### ★注意マーク4 危険箇所(道路アンダーパス) 地下道



このマークは、大雨時に水がたまりやすく、通行止めになる恐れがある箇所を示しています。避難の際は、別の経路へう回しましょう。

### ★注意マーク5 土砂災害(特別)警戒区域



土砂災害特別警戒区域



土砂災害警戒区域

このマークで囲まれたは区域は、大雨時にがけ崩れや土石流、地すべりなどが発生する可能性がある危険箇所です。

## 土砂災害とは・・・

### 1. 土砂災害の種類

#### がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が雨や雪解け水の浸透や地震等でゆるみ突然崩れ落ちる現象です。一瞬で崩壊します。



#### 土石流

山腹や川底の土砂が、大量の水と一緒に一気に流れ出てくる現象です。猛スピードでやってきます。



#### 地すべり

山地の斜面を作る岩石や土壌が大きなかたまりのまま、斜面下方へ移動する現象です。広い範囲に被害が及びます。



### 2. 区域の種類

#### 土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または体に危害が生じるおそれのある区域

#### 土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または体に著しい危害が生じるおそれのある区域

※土砂災害(特別)警戒区域にお住まいの方は、大雨の時には避難が必要となる可能性がありますので、注意してください

出典「政府広報オンライン」



# ステップ⑤

## 自分の避難地図を作ろう!

安全に避難場所まで行けるように、自分の避難地図をつくりましょう。家から避難場所までの危険な場所や目印などを記入して、一番安全な経路を確かめましょう。



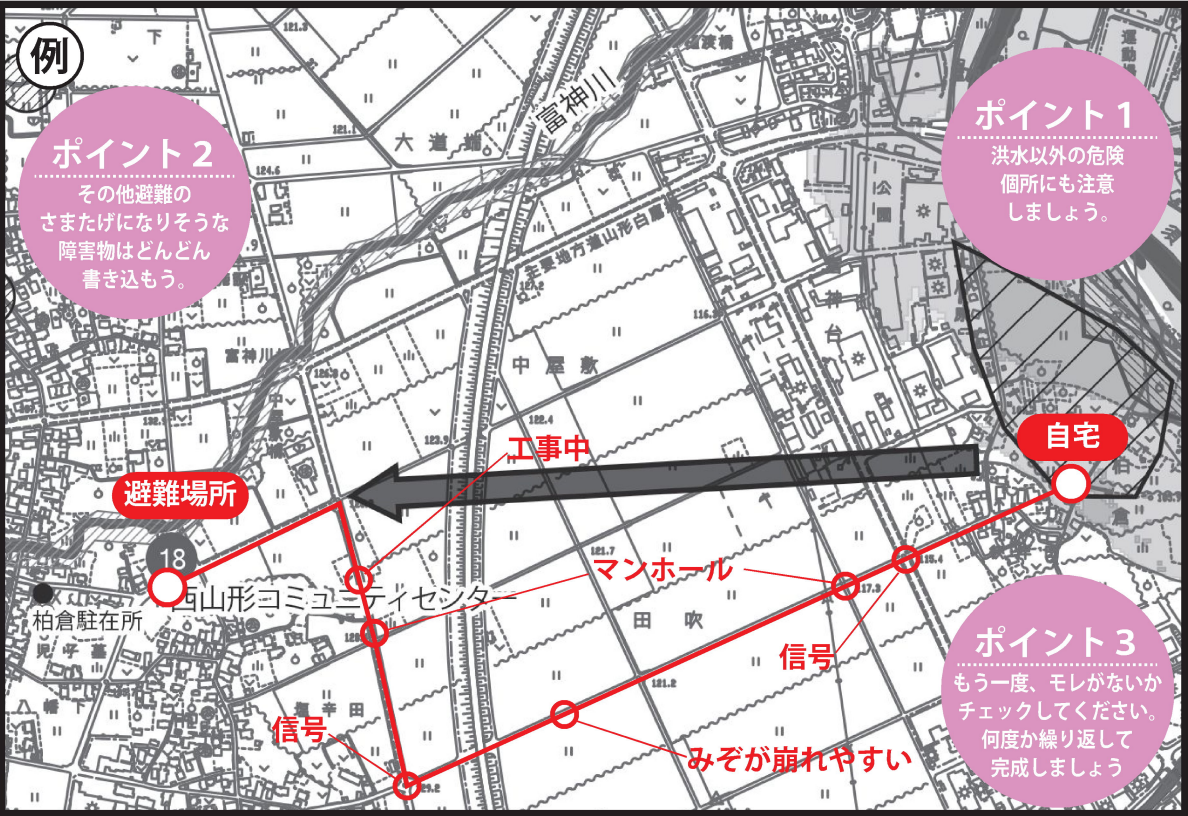
洪水ハザードマップの見方と使い方

### チェック項目 (コピーしてください)

これらを地図でチェックしてみよう!

1.あなたの家はどこですか? 赤い丸印をつけてみましょう	<input type="checkbox"/>	
2.あなたの家のあたりは、どのくらいの水の深さになりますか?	( ) m	<input type="checkbox"/> → <b>区域外へ早期避難</b>
3.あなたの家のあたりは、 <small>かがんしんしょく</small> 河岸浸食や <small>はんらんりゅう</small> 氾濫流の区域に入っていますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> → <b>区域外へ早期避難</b>
4.あなたの家から避難場所までの道路を赤い線で記入してください。 ・赤い線であらわした避難経路は、川をわたりますか?	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> → <b>区域外へ早期避難</b>
・赤い線にそって道路のそばに川はありますか?	<input type="checkbox"/>	
・赤い線にそって水はどれくらいの深さになりますか?	( ) m	
・赤い線の近くに看板や信号機などの目印になるものがありますか?	<input type="checkbox"/>	
・赤い線の近くにマンホールや道路のわきにみぞはありますか?	<input type="checkbox"/>	
・赤い線にそって土砂くずれが起きそうながけの場所がありますか?	<input type="checkbox"/>	
・別の避難経路はありますか?	<input type="checkbox"/>	

(注意) 浸水想定区域以外の人でも予想外の洪水に備えて近くの避難場所を確認しておきましょう。  
保護者・学校の先生方へ 山形市洪水ハザードマップから学区の部分を拡大コピーして配布してください。



避難場所や避難経路を定期的に確認しましょう。

工事などで避難経路がなくなっている場合があります。家族で防災会議を開いてみることも大切です。